

授業科目名	日本語教育演習Ⅱ	単位数	1単位
担当教員名	遠藤みどり	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	本科目は日本語教育現場に則した指導内容であり、日本語教育現場、日本語教師養成経験のある教員が実践的な視点から様々な教授法を用いて指導する。		
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる(専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力)			
授業のテーマ及び到達目標			
母語としての日本語と外国語としての日本語の違いに目を向ける。 (1)日本語学習者に対する「かな」を中心とした文字指導。 (2)初級日本語授業を行う際の実習教案の作り方。 「日本語教授法」「日本語教育演習Ⅰ」で作成してきた教案のブラッシュアップ。 『みんなの日本語 初級Ⅰ』の指定課を最初から最後まで通して授業を展開できるようになる。			
授業の概要			
日本語教育関連科目(特に「日本語教授法」)で学んだ知識に基づいて実際の授業をする上での手法を学ぶ。特に読み書きにかかわる文字言語について、どのように指導すれば理解しやすいか、どのような点が習得しにくいかを受講者の考察やグループワークなどアクティブラーニングの手法も用いて検討する。その後、実際の授業教案も受講者と一緒に考えながら作り、この科目修了後の「日本語教育実習」へとつなぐ。			
授業計画			
第1回 事前学習で考えてきたことの発表 第2回 ひらがな・カタカナの教え方(日本語教育のための文字と表記、文法指導、日本語の意味体系、日本語語用論) 第3回 特殊音・漢字の教え方(日本語教育のための文字と表記、文法指導、日本語の意味体系、日本語語用論) 第4回 教員による『みんなの日本語 初級Ⅰ』該当文型の実践練習(日本語教育プログラムの理解と実践) 第5回 文型の解説、教授法の解説、教案の解説、教案を作成するうえでの注意点□ 第6回 『みんなの日本語 初級Ⅰ』該当課の教案作成に関して大切なこと(教室のことは、言語環境の設定を考える、目的・対象別学習者への日本語教育法、コミュニケーション教育、言語運用能力、社会文化能力) 第7回 教員によるフィードバック(1)(評価法を含む) 第8回 1日目に作成した教案について全体、または各グループで共有(学習ストラテジーを意識する、受容・理解能力、対人関係能力) 第9回 演習Ⅰから引き続き、各グループでの教案、教材(PPT)作成(授業計画、教材分析・教材開発、教材作成、著作権、ICT活用) 第10回 教案、教材(PPT)の仕上げ□ 第11回 該当課のチームティーチング 第12回 教員によるフィードバック(2)(評価法を含む) 第13回 教育実習用教案の作成・教材作成(1)他者の授業分析、自分の授業を点検する能力の育成 第14回 教育実習用教案の作成・教材作成(2)自分自身の授業分析、自分の授業を点検する能力の育成 第15回 教育実習に向けての諸注意、案内 科目修得試験			
スクーリングでの学修			
4日間にわたり、日本語を外国人に教えるための授業をグループで組み立て、実際にそれをもとに対面授業を行う(模擬実習、教壇実習)			
テキスト			
高見澤孟著「増補改訂版 新・はじめての日本語教育2」アスク出版 978-4872179941 スリーエーネットワーク編著「みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 本冊」978-4883196036、「みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 本冊」978-4883196463 スリーエーネットワーク			
参考書・参考資料等			
『文字・語彙を教える』国際交流基金 ひつじ書房 978-4894763036			
学生に対する評価			
スクーリング評価(50%)、科目修得試験(50%)			